

Mizuho Bangkok Daily Market Report

Dated of 2023/08/24

Forex

	Close	CHANGE
USD/THB	34.97	-0.05
JPY/THB	0.2414	0.0013
USD/JPY	144.84	-1.05
EUR/THB	38.01	0.01
EUR/USD	1.0863	0.0017
USD/CNH	7.288	-0.019
SGD/THB	25.83	0.04
AUD/THB	22.66	0.17
USD/INR	82.68	-0.25
USD Index	103.42	-0.14

Bond

	Close	CHANGE
5Y (THB)	2.508	0.017
10Y (THB)	2.794	0.023
5Y (USD)	4.370	-0.118
10Y (USD)	4.192	-0.132

Commodity

	Close	CHANGE
GOLD	1,918.5	22.1
WTI (Oil)	78.89	-1.46
Copper	8,452.0	89.5

Stock

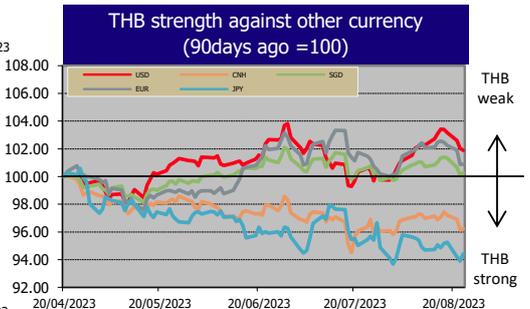
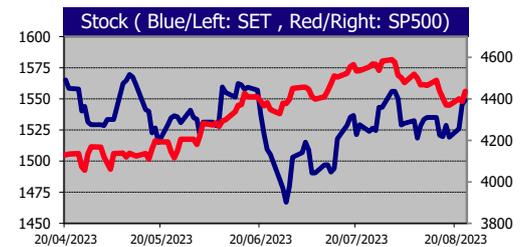
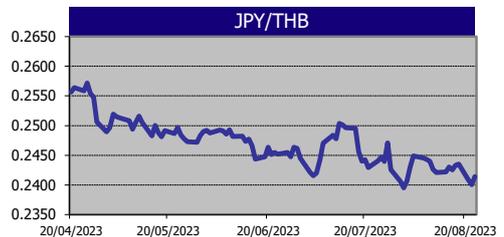
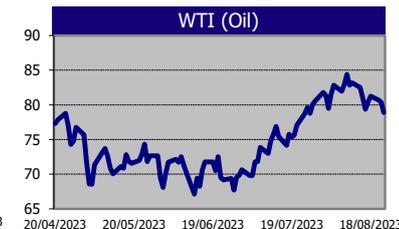
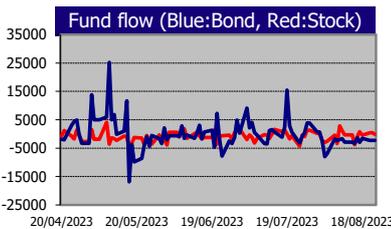
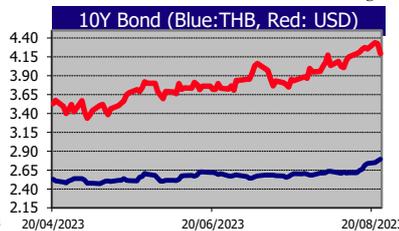
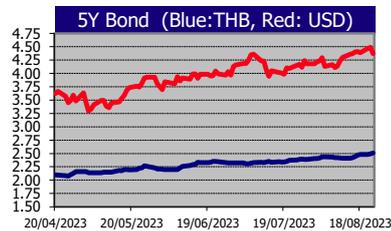
	Close	CHANGE
SET (TH)	1,549.01	3.41
NIKKEI (JP)	32,010.26	153.55
DOW (US)	34,472.98	184.15
S&P500 (US)	4,436.01	48.46
SHCOMP (CN)	3,078.40	-41.93
DAX(GER)	15,728.41	22.79

Fund Flow (Overseas Investors)

	Close	CHANGE
Stock net flow	(162)	-671.7
Bond net flow	(2,301)	0.0

*compared with previous day

(Source: Bloomberg)



Yesterday's market summary

●ドルパーツ

●昨日のドルパーツは35パーツちょうどを挟んだ小幅な値動きに終始。35パーツちょうど付近で取引を開始すると、前日の新首相選出の余韻から対ドルでパーツは上昇。35パーツを割り込み、34パーツ台後半まで下落した。ただ、ジャクソンホール会議を控える中、下値は限定的に。セタブット・タイ中銀総裁が講演にて「タイ経済は回復も、観光・輸出は予想よりも弱含んでいる」との認識を示したヘッドラインも見られる中、35パーツ台前半まで反発した。その後海外時間に入り、米8月S&Pコンポジット・製造業・サービス業PMIがいずれも市場予想を下回ったことが確認されるとドル売りで反応し、ドルパーツは再度34パーツ台後半まで下落。終盤にかけては様子見ムード強まる中、同水準で動意に乏しい推移となり、そのまま34.97レベルでクローズを迎えた。

●ドル円その他

●昨日のドル円は下落。145円台後半でスタートしたドル円は、米金利の上昇が一服し、目立った材料も見当たらない中、バンコク時間を通して上値重く推移。海外時間に入ると、米国経済指標の軟調な結果を受けてドル売りが進行。ドル円は145円を割り込み、144円台半ば付近まで下落する場面を見せた。終盤にかけては144円台後半まで戻すも、徐々に様子見ムード強まる中、反発も同水準までに留まり、結局144.84レベルで引けた。

Bangkok Dealer's Eye

今週、タイ国内では新首相がようやく選出され、今後は新内閣発足、経済対策の行方等が注目されるが、グローバル市場では米10年債利回りが16年ぶりの高水準をつけたことが話題となっている。米金利上昇の背景は、最近米経済の堅調ぶりを示す経済統計が続いていることでFRBが早期に利下げに転じる観測が後退していること、米国債の格下げ、国債増発による需給悪化など様々な要因があるが、いずれも米金利の上昇は為替市場において米ドル選好地合いを喚起するものであり、実際8月はこれまでのところ主要国、新興国通貨の太宗が対ドルで下落する展開となっている。足許市場参加者の目は、本日から米国で開催されるジャクソンホール会合に向けられ、特に25日に予定されるパウエル米FRB議長の発言に注目が集まる。市場では、金利をしばらく高水準に据え置くといったメッセージになることが予想されており、米長期金利が一段と押し上げられる展開には留意が必要だろう。そうしたトレンドの中で、パーツがタイの今後の閣僚人事や景気刺激策などを材料にどこまで反発できるか、ドル円は介入警戒感を背景にどこまで円安に耐えられるか等に注目していきたい。(吉田)

The report is prepared for the sole purpose of information only. It is not an invitation to trade. The writer's view expressed herein would not be substituted for the exercise of rational judgement by the recipients.